

今年度、巡回相談に行かせていただく中で、不登校・不登校気味という相談が非常に増えているように感じています。そこに付随してくるものとして、ゲームに夢中になっていることが挙げられます。新型コロナウイルスの影響もあり、新年度は休校になったり、分散登校等なかなか規則正しい生活が難しかったことやウイルスに対しての不安、我慢ばかりの毎日にストレスをうまく表現できなかつたりという非日常の生活にしんどくなっていることも考えられるのかもしれない。

将来を見据え、社会的自立（経済的自立・精神的自立）において、今できること（学校復帰）に取り組んでいくことが必要であると考えます。

不登校の子どもの状況は、例えると
ガソリンのない（少ない）自動車



① 【認識の段階】

★不登校の問題とはどういう状態なのか、本人と一緒に確認する。

⇒行きたい気持ちがあるがいけない状態。みんなと一緒にやりたいけど、難しく苦しい状態。

■きっかけと原因…原因がわかれば、不登校がなくなるわけではない。原因というよりきっかけの視点が大事。

■不登校がとんでもないものでなく、大人になるための大きな作業をしているところと捉える。**ネガティブ→ポジティブ**

② 【支援・指導の段階】

★ガソリンを日常生活の中で入れる段階。**キーパーソンが大事**

⇒登校を強要したり、原因を追及したりすることは避ける。

■感情の理解（自分の気持ちをわかってもらえたという実感）

■自己選択・自己決定（様々な場面、日常生活で小さなことでも「自分で決める」）
（要求やトラブルはチャンスととらえる）

■家庭に対する援助・助言（家庭と学校とのパイプ・・・車〈本人〉が進める道路整備）

■専門機関との連携（サポート機関）



③ 【チェックの段階】

★心的エネルギーの確認・・・ガソリンは入ったか。

■退屈し始める ■生活のリズムが整ってくる ■手伝い等するようになる。

■外出するようになる

★学校への関心は出てきているか。

■自分から学校の話をする ■筆記用具や制服をさわる

④ 【再登校において】

★条件が整えば、再登校に結びつく。

（心理的な面のみでなく、学力・体力・受け入れ態勢すべてを整備）

■慎重に対応（例えば「上靴を下駄箱にいられたらOK」

「教室には右足から入ろう（気持ちを逸らせる）」等）

■**スモールステップ** ■**月曜日は避ける**

★登校できなかったとしても、本人の力不足とならないようにする。



「発生予防」「早期対応」が大切